

(表中敬称略)

会議名	リカレント教育プログラム開発部会（第1回）		
日 時	令和4年7月15日（金）10:30～12:00		
場 所	オンライン（Zoom ミーティング）		
オンライン出席者（計14名）			
カテゴリ	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
産	西日本高速道路株式会社（関西支社）	構造担当部長	◎佐溝 純一
産	一般財団法人橋梁調査会近畿支部	近畿支部長	別木 孝
産	国土交通省近畿地方整備局企画部	技術調整管理官	堤 英彰
学（連携校）	福島工業高等専門学校	助教	相馬 悠人
学（連携校）	福井工業高等専門学校	教授	辻野 和彦
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	玉田 和也
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナンス教育副センター長	毛利 聡
学（連携校）	放送大学学園	主任	上妻賢太郎
事務局	長岡工業高等専門学校	助教	白井 一義
事務局	長岡工業高等専門学校	特命助教	村山 達也
事務局	福井工業高等専門学校	特命助教	宮川 清剛
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田 知子
事務局	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛 園恵
事務局	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	入江 正樹
◎：部会長 ○：副部会長			
議事次第			
1. はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也			
2. 部会長挨拶 西日本高速道路株式会社関西支社 構造担当部長 佐溝 純一 様			
3. リカレント教育プログラムの検証について（周知）			
・令和4年度リカレント教育プログラム開催計画			
・基礎編（橋梁点検） 25 回			
・応用編（橋梁点検） 4 回			
・専門特修講座（及び橋梁診断技術者認定講座） 6 回			
4. 橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】について（報告・審議・依頼）			
・橋梁診断技術者認定試験合格基準の改定（報告）			
・橋梁診断技術者認定試験（選択式問題）の設問方針（審議）			
・選択式の比重が高く、診断能力がより求められる「演習」の比重が小さい			
・演習レポートはグループワークの結果を使用するため個人の到達度評価がしにくい			
・橋梁診断演習の対象橋梁と演習用教材の提供（審議・依頼）			

5. 意見交換

- ・KOSEN-REIM 開発プログラムの俯瞰

6. まとめ

7. その他（今後の予定、事務連絡等）

以上



写真1 舞鶴高専 玉田先生挨拶



写真2 佐溝部会長挨拶



写真3 オンライン参加者

リカレント教育プログラム開発部会（第1回）議事録

日時：令和4年7月15日（金）10:30～12:00

場所：オンライン（Zoom ミーティング）

（敬称略）

1. はじめに 舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科 教授 玉田 和也
2. 部会長挨拶 西日本高速道路株式会社関西支社 構造担当部長 佐溝 純一 様
3. リカレント教育プログラムの検証について（周知）
 - ・令和4年度リカレント教育プログラム開催計画
 - ✓ 専門特修講座は、主に応用編（橋梁点検）の合格者が受講するため、応用編受講者を増やすことが大事である。
 - ✓ 国土交通省では令和4年7月以降の点検業務の総合評価において、技術士に加えて橋梁点検に特化した民間資格の保有に加点する取組みを全国試行しており、橋梁点検（基礎編、応用編）の受講促進に繋がる。
4. 橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】について（報告・審議・依頼）
 - ・橋梁診断技術者認定試験合格基準の改定（報告）
 - ・橋梁診断技術者認定試験（選択式問題）の設問方針（審議）
 - ✓ 橋梁診断技術者認定試験合格基準の改定の報告内容について了承された。
 - ✓ 橋梁診断技術者認定試験（選択式問題）の設問方針について了承された。
 - ✓ 選択式問題の「不適当」を1つ選ぶ形式は、正しい解答が3つ頭に残るため、教育の観点で効果的である。
 - ・橋梁診断演習の対象橋梁と演習用教材の提供（審議・依頼）
 - ✓ 「橋梁診断演習」の対象橋梁として、「鋼橋」及び「コンクリート橋」に加え、「PC 橋」を用意し、「PC 橋」は演習レポートの記入例を示すための対象橋梁とする。
 - ✓ 近畿地方整備局に対象橋梁の要件を満たす橋梁の選定が依頼され、了解された。
5. 意見交換
 - ・KOSEN-REIM 開発プログラムの俯瞰
 - ✓ 内容についてはかなり広範囲でまとめられている。参加者の感想や意見、最新技術の動向や変化に対して柔軟性をもって取り組んでほしい。教材なども陳腐化しないよう工夫が必要で

ある。

- ✓ 講座毎に、どのような技術者を対象としているのか、講座でどのようなことが学べるのか、明確に発信することが大事である。
- ✓ 放送大学学園としても建設 ICT をはじめとした講座の改善において、提供できるコンテンツがあれば積極的に協力していきたい。
- ✓ 民間資格は多数あるが、建設 ICT を取り入れている講座はあまり聞かないので PR になるのではないか。
- ✓ 近畿地方整備局では、総合評価で加点される技術者の評価区分について 6 月半ばから公開を始めた。受講に関して良いインセンティブになるため、建設コンサルタンツ協会などに PR してはどうか。
- ✓ 建設 ICT に関してもインフラ DX 等を国土交通省が薦めている関係から、積極的に PR するとよい。
- ✓ 近畿地方整備局内での試行として、点検実務班に 1 名は民間資格者を配置する体制を求めることも、今後、検討していきたい。

6. まとめ

- ✓ 佐溝部会長より合同会議にて部会報告を行う。

7. その他（今後の予定、事務連絡等）